

令和2年度 学校評価の結果と分析及び課題

I 調査の概要

	生徒	生徒（授業評価）	保護者	教職員
回答者数	669	669	655	62
回答率	100%	100%	97.9%	100%
調査日	R2.12.1	R2.12.1	R2.11.11～18	R2.11.16～20

II 本年度の重点目標

1. 確かな学力と主体的に考え行動できる力の育成
 - (1) 基礎学力の定着と学習意欲の向上への取組
 - (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

【アンケート結果の分析及び課題】

今年度は約2ヶ月間の休業から始まり、学習内容が大幅に削減されることが懸念されていた。しかし学校行事のほとんどが中止となったこともあり、授業時間を確保することができた。再開後もさまざまな制約の中であったが、生徒は学校生活に適応し落ち着いた様子で学習に取り組んでいた。昨年と変わらず「授業を大切にしている」と答えた生徒が多く、本校生徒の授業に対する意識の高さを感じる。また「専門性習得」「検定や資格取得」に対し高い意欲を持つ生徒の割合が昨年度以上になり、多くの生徒たちは学校生活に充実感を得ている様子が伺える。しかし「専門性を深めている」と感じている生徒は6割程度にとどまった。いずれも基礎学力が要求されるため、効果的な家庭学習・自主学習の方法と習慣を身につけさせる工夫・指導を考えていきたい。

2. ルール・マナーを守る態度と自己指導能力の育成
 - (1) あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、時間厳守の指導の徹底
 - (2) 交通ルールの遵守と交通安全指導の徹底
 - (3) 自己有用感に裏付けられた自尊感情の育成
 - (4) 自他を敬愛する心、奉仕する心の育成

【アンケート結果の分析及び課題】

朝の登校指導や学期2回の服装頭髪指導などの効果もあり、積極的なあいさつ、きちんとした頭髪服装が多くの生徒ができています。また、交通安全指導（朝の駐輪場指導、交差点の立哨指導など）に取り組んだことで、交通ルールを多くの生徒が守っていると感じている。しかしこれらに関する保護者アンケート結果ではやや低い数値となり、一部ではあるが意識の低い生徒も見られる。指導の徹底、工夫改善が必要である。また、いじめや学校不適応等を早期に発見し解決できるよう、生徒が悩みを相談できる体制作りに努め、毎月のスクールカウンセラーによるカウンセリング、教職員による相談窓口「なんでも相談」を実施している。カウンセラーと関係職員の連携は大変効果的であった。引き続き教職員全員の意識と保護者や外部機関との連携を図っていききたい。新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用、手洗い・うがいの励行、教室等の消毒・換気等をお願いしてきた。今後も継続して行い、さまざまな状況変化に柔軟に対応をしていきたい。

3. 自己の在り方生き方を考えるキャリア教育の実践
 - (1) 年間を通した体系的なキャリア教育の実践
 - (2) 専門性の深化と進路意識・目的意識の向上
 - (3) 検定や資格取得等とおしての自己肯定感の高揚

【アンケート結果の分析及び課題】

感染症の影響もあり求人数は減ったものの、今年度も就職は早い段階で内定をいただくことができた。これは生徒の頑張りもあるが、卒業生が定着し信頼を得ていることが大きいと考える。進学においても早い段階で希望する学校・学部学科が決定し、受験に向かうことができた。これも多くの生徒が「進路活動に積極的に参加している」と答えており、進路に対する意識が高いためと推測できる。一般選抜や特待試験での進学を志望する生徒には模擬試験の積極的な受験を勧めるとともに、補習授業を充実させ学力のさらなる向上を図っていききたい。また、早い段階から進路意識を向上させるため、生徒の実態に合わせて進路行事の精選・補充・見直しを行いながら、3年間を見通したキャリア教育をさらに充実させていきたい。

4. 保護者や地域の信頼に応える学校づくりと特別活動の活性化
 - (1) 地域連携事業等による保護者や地域の信頼に応える学校づくり
 - (2) 逞しい心と体、豊かな人間性の涵養
 - (3) 危機管理意識の高揚

【アンケート結果の分析及び課題】

地域連携事業として毎年行われていたボランティア活動や佐野松桜高校フェスタ等が感染防止のために自粛や中止になってしまった。そのため4学科の魅力を地域に発信する機会が限られたものとなってしまった。今後も感染対策を講じた上での、実施方法・時期・形式をさらに協議し充実させたい。またホームページを活用し、学校行事に関する記事を定期的に掲載することで、開かれた学校づくりを進め、保護者や地域の信頼に応える学校としていきたい。現在、学科紹介ビデオを掲載し、本校の教育活動や魅力を理解してもらうための情報発信を行っている。年度当初が休業になり部活動への加入率減少が不安視されたが、例年同様の加入率を保ち、活発に活動する様子が見られた。しかし大会や発表の場が少ない中で、目標掲げて活動できる環境づくりを進めていく必要がある。まだまだ安心して学習に取り組める情勢ではないが、コロナ禍であってもICTの活用等の工夫により、地域や関係機関との協力体制を整え、連携を図りながら教育活動を行っていききたい。